



NEWSLETTER

No 17 1996. 8. 15. 発行

歯科保健医療国際協力協議会

事務局：〒390 長野県松本市横田3-10-14 TEL&FAX：0263-39-1583

発行：村居正雄 編集：駒津めぐみ 現会員数：203名

Japan Association of International Cooperation for Oral Health



会長就任 ご挨拶

村居 正雄



「口腔保健分野の国際協力のための情報収集と提供」これが、1990年にJAICOHが設立された時のメインテーマでした。

1992年の蓼科合宿では、「現場を知ろう、汗かきながら国際協力を体験しよう」を合い言葉に、カンボジア、ソロモン諸島プロジェクトが始まりました。

1994年日本口腔衛生学会のミニシンポジウムで「歯科医学教育のカリキュラムに国際保健を」と訴え、その後、歯科医学教育学会、国際保健医療学会、日本公衆衛生学会などで口腔保健分野の国際協力の実態や成果を日本国内に向けて意識的にアピールしてきました。

今年1996年のJAICOH総会は、「市民と語る国際保健」をテーマに、松本市の本郷公民館と共に催で食と生活、健康を語り合いました。2年前から横浜市の市民団体SISがJAICOHにチャリティー・コンサートの収益金をご寄付くださるなど、市民とのつながりが広がってきています。

以上のようなJAICOHの辿った道程を、皆さんはどのように感じておられるでしょうか。単に「国際協力のノウハウを知りたい」人間の集まりが、Tiyし、評価し、壁にぶつかり、新たなエネルギーの必要性を感じて今日に至った経過をご理解いただきたいと思います。

これから2年間、また私に会長としての試練が与えられました。

今年度は、郵政省ボランティア貯金配分金の金額が今現在決定しておらず、役員一同やきもきしています。会費収入は100万円にすぎません。総予算2,000万円の大部分は助成金や寄付で賄われているわけですが、助成金をいただく

ための申請書や決算書作り、報告書作り、JAICOH絵葉書の企画、販売、テレホンカードや使用済切手の回収と換金等はこれまで一部役員の献身的な努力に頼ってきました。しかし、ボランティア貯金（1995年度は1,300万円でした）が半減するとなれば会員全員にJAICOHを育てる気持ちに加えて、具体的な行動をお願いせざるを得ません。JAICOHは会員の皆さんのが夢を実現する会です。夢の実現のためにお一人お一人に汗をかいていただきたいのです。

今年度は、下記の活動を計画しております。皆さんはどの活動に参加を希望されますか。是非直接担当者または事務局と連絡を取ってください。

I フィールド活動

(1) カンボジア

《担当：池田・柴田……Fax 052-504-3718》

- ・タクマウの村落に入って母子保健活動
- ・カンダール州立病院歯科室整備と技術支援
- ・デンタルナース、ヘルスワーカーの教育に関する支援
- ・ブノンベン大学歯学部に対する教育援助

(2) ソロモン諸島

《担当：追川……Fax 0273-61-3694》

- ・スタディー・ツアーア
- ・巡回歯科診療、学校検診、保健指導
- ・食生活、暮らしの交流
- ・歯科技工士の養成と技術支援

II 国内活動

(1) 総会の開催（1回）

(2) 研修会の開催（全国各地で5回、オープンで）

(3) ニュースレターの発行（4回）

《担当：駒津……Fax 0265-53-9462》

(4) 歯科医学教育に国際保健を導入する活動

《担当：真木……Fax 043-270-3746 東京歯科大学》

(5) 関連学会での活動報告、集会の企画

(6) 在日外国人医療に関する研究

《担当：大鶴……Tel 045-743-4470》

- (7) パソコン通信ネットワークに関する研究
《担当; 宇野……Fax 0423-94-2410 多摩全生園》
- (8) 学生会員の活動の支援
《担当; 真木……Fax 043-270-3746 東京歯科大学》
- (9) その他

III JAI COHのマネージメントに関する活動

- (1) 「この指とまれ」活動
《担当; 茶円……Tel 052-802-1445》
・使用済切手、テレホンカードの回収
- (2) JAI COH絵葉書の販売
《担当; 千木良……Fax 0492-43-8956》
- (3) その他

国内研修については、下記の方々が担当となっています。

テーマ、場所等の要望をお寄せ下さい

- ・関東以北; 柳田 Fax 0471-44-6037
石川 Fax 0429-21-3743
- ・関西以西; 秋山 Fax 0798-71-1067
後藤 Fax 0790-22-0186



25日JAI COH総会が開催され、本年度の予算、事業計画などが話し合われた。



本郷公民館呂敷の部屋で、地区の方々、ジャイコ会員が車座になっての話し合い。今回大活躍の宮田さんのお話に全員が聞き入った。



グループに分かれ、それぞれの課題について真剣な話し合いが行われた。年齢、性別、職業を超えての意見交換は、それぞれにとって貴重な経験となった。



地域活動が活発な本郷地区の人々は、積極的に今回のセミナーに参加してくださった。熱のこもった話し合いが続く。

「食から考える

— 健康、生活、地域、医療、歯 —

— 総会・研修会の狙い —

JAI COHはここ数年、会員が急増し、これにともない地方の会員や歯科分野以外の会員が増加しています。また、地域の市民団体など歯科とは直接関係のない個人、グループがいろいろなかたちでJAI COHに関わっています。さらにカンボジアやソロモンのフィールド活動においても歯科保健のみならず地域医療、栄養、衛生、コミュニティや地域、社会のありかたまで関与した活動を必要とされています。

これらを踏まえて本年度の総会、研修会は多くの会員が参加できる、または是非参加したいと思えるような内容を目指し、(1)多様な会員へのニーズに対応する。(2)テーマを歯科分野からさらに広げる。(3)地方の会員や直接フィールドに参加できない会員の積極的参加を促す。(4)自発的で参加型の運営。(5)地域の人々と協力していく。の5点を基本方針としました。

さて、信州での風土にねざした郷土食は、硬い干し芋や「おやき」のように素朴ではあっても、歯や頬を鍛え、健

庶な口の中を作っていました。しかし経済が発展し、お金が手に入るようになり、インスタント食品や贅沢な食品が食卓を変えるにしたがって、口の中の健康も虫歯が増え、次第に悪くなっています。日本で昭和30年から40年代に起きたことが、今、海外でも起きています。これをみても虫歯は社会が作るといつても良いでしょう。今回はこのような地域で今まで起きてきたことと、カンボジアやソロモンで今起きていることを重ね合わせて考えていく事にしました。

—なぜ「本郷」なのか—

今回の総会・研修会は長野県松本市の本郷地区の公民館との共催事業ということで実施しました。

本郷地区は20年前に松本市に合併した旧村で、中山間地から水田や果樹などの農業地域と、浅間温泉などの観光地区、さらに戦後に開けた住宅地域と多様な構成をもつ人口約1万7千人の地域です。

ここでは地区の公民館を中心に、住民が主体的に地域づくりに取り組んでおり、JAICOHとしてはこの機会に地域の食文化を学んだり、地域の人々と直接語りあうことで、これからの方に向かってヒントを掴みたいと考えました。

一方で本郷公民館としては、高齢化の中で地域の課題の一つである医療について、医療関係者と議論していくなかから、地域の保健医療の課題に取り組むきっかけとしたいたと考えました。そして地域という視点から、健康や医療、生活、食を市民と医療関係者が一緒に考えるネットワークを本郷に作ることを目指しました。従って企画の段階からJAICOHの会員のみでなく、地域住民の方に参画していただき、内容の設定や準備を共に進めたのです。

—総会・研修会の内容—

総会・研修会は1996年5月24日から26日までの3日間にわたり、松本市本郷公民館で開催されました。

主催は地域住民とJAICOHでつくる「食から考える－健康、生活、地域、医療、歯」実行委員会で、JAICOH、松本市本郷公民館、「生活の交流を考える会・ながの」が共催し、本郷公民館「国際から地域を考える講座」、「郷土料理を作る会」「本郷子どもクラブ」「本郷地区福祉ひろば」「本郷地区生活改善グループ」「あさま朝市実行委員会」「風土舎」などの地域の団体が後援しました。

プレ企画として、画家であり健康生きがいづくりアドバイザーで会員の千木良さんの絵画作品展と、会員の追川先生の写真展、活動パネル展示を5月18日から公民館のロビーで開催するとともに、24日午後には地区の高齢者や子どもを対象にした千木良さんの講演会「いのち弾ませて一生きがい－私の場合」を、25日午前には洋画絵画教室（講師千

木良さん）を実施してそれぞれ20名近い地区の人々が参加し、大変好評でした。総会は25日午後1時から30名が参加して行われ、95年度の事業および決算の報告、96年度の事業計画と予算、役員の改選などが行われました。そして総会に引き続いて、いよいよ研修会がスタートしました。

研修会はパート1「食とむらづくりー信州とソロモンをつなげば」と、パート2「口の中から見えるものー地域の健康と医療」からなり、それぞれ25日午後と26日午前に開催されました。その間に郷土食作りの講習会と交流会、浅間温泉あさ市と交流をはさんだスケジュールで行いましたが、地区住民、JAICOH会員、医療・福祉関係者、公民館職員、一般市民、NGO関係者などあわせて70名が参加しました。

パート1「食とむらづくりー信州とソロモンをつなげば」では宮田正美さん（郷土料理研究家）、三田コトさん（長野県短期大学教授、食物栄養学）、深井ゆかりさん（子どもクラブ）、大西直美さん（JAICOHブノンベン事務所）の4名の方々の発題を受けてグループ討論を行いました。ソロモンやカンボジアと信州において、地域に伝わる食や生活が近代化し豊かになることでどのように変化してきたかを考え、「食」の意味をもう一度問い合わせていく事の大切さが語られた他、グループ毎に、健康、生活、地域、医療、歯など多様な討論が展開されました。

郷土食作りの講習会では地元の郷土食研究家である宮田正美さんを講師に、郷土料理を作る会の協力を得て、地域の郷土食である「よもぎのうすやき」と松本の木村先生のそば打ち実演が行われ、特に地区外から参加したJAICOHの会員にはよい経験となりました。また交流会では地区からの参加者と会員とが、お酒を酌み交しながら、さまざまな話題で話は尽きず、遅くまで語り合い交流を深めていました。

地元の好意で破格の値段で泊めていただいた「目の湯」さんで温泉にたっぷりつかってリフレッシュした参加者は、26日朝、生活改善グループが開いている「浅間温泉あさ市」で交流した後、意見交換会「口の中から見えるものー地域の健康と医療」に参加しました。村居正雄さん（JAICOH会長）、宮田正美さん（郷土料理研究家）、玉井袈裟男さん（風土舎、信州大学名誉教授）、乾順子さん（福祉ひろば）ら4人の発題の後、松本の開業医である神谷先生の司会で、全員で議論を行いました。地域の住民がいかに自分の健康を守っていくか、その時に医療に関わるものは何ができるのかを、地域の住民と、地域の医療関係者の立場からの自由な発言が交わされました。市民からは歯科医療の仕組みについてさまざまな質問や意見がだされ、歯科

関係者からは、いろいろな矛盾や問題点などが率直に提起されました。活発な議論のなかで、医療や健康について市民も医療関係者も一緒に考えていくことの重要性が明確になりましたとともに、「良い医者は住民が育てるもの」という結論にいたりました。

—研修会の残したもの—

今回の研修会は、初めて参加者やテーマを歯科医療に限定せず、東京や名古屋などの大都市ではない「場」で実施した企画です。特にJAI COHの会員と一般の市民が、同じ目線で語り合い交流したことは、双方に新鮮な経験となりました。本郷公民館の活動を支える本郷大村地区の上原千尋さん（会社員）は、「歯科医師というと、お金持とか、どら息子など、とかく儲け主義というイメージを自分は持っていたが、今回のセミナーでJAI COH会員と出会いすっかりイメージが変わりました」と率直に感想を述べてくれました。「特に歯科に限定しないで広いところでのごとを捉え、その中で自分の役割を考え、市民と一緒に悩む姿勢を持つ歯科医療者に感銘を受けた。そしてJAI COHが多くの方が関わりをもてるオープンなグループであり、外に向かって発進していく意欲をもち、また議論だけでなく、日常の中での行動をともなっている。強いて反省点を挙げると、地区の方からの参加者が固定されていて、もっと多くの人に参加してもらいたいことです」

同様に公民館の所在する浅間温泉第5町会の犬飼勝三さ

ん（元町内公民館長）も、JAI COHを通じて歯科のイメージが変わったと指摘し、「地域の中で自分たちの問題として歯科医療を取り組んでいこうというきっかけになった」と評価してくれました。さらに松本市で歯科医師会が実施している在宅診療や、診療費用の問題などについても情報が得られ、日常のニーズに密着した内容であったこと、そして海外で起きている社会の変化が、自分の周囲に起きていることと結びつけられたことについても、よかったですとして挙げてくれました。さらに千木良さんの講演は特に感動し、その生き様に強く打たれることから、自分も絵の勉強を始めたそうです。また今回企画に地域住民が直接関わり、多くの人が参加したことで、地域の中に主体性が生まれたことも大きな成果であり、とかく閉鎖的になりがちな地域社会が、外部との交流を志向する効果もありました。このように研修会は地域にとって、数多くの成果を残すことができ、また是非本郷に来てほしいという声が数多くあがっています。

一方JAI COHにとっても、地域ときちんと向かい合うという経験は貴重であったと言えます。また、今回は長野、松本在住の会員や、神谷先生のような新しいメンバーが企画から参画したこと、地域の中のJAI COHのネットワークが生まれたことも大きな成果となりました。本郷図書館では6月に神谷先生による歯をテーマにしたお話しの会が行われ、早速地域との交流が始まっています。今回の

成果をJAICOHとしても、個人としても今後にどう活かすかが問われることになると思います。食という観点からは、この夏ソロモンに生活の交流を進めることを目的に、信州の食、栄養や農村女性の生活改善に携わるメンバーが参加して行なわれますが、今回の研修会はその方向付けになつたと思われます。また、それぞれの会員は、自分の地域の中での役割を再認識したのではないでしようか。いづれにしても密度の濃い3日間でした。最後に、今回の企画に参加した方々、特に本郷地区や松本の皆様に感謝をしつつ、報告を終わりにしたいと思います。

白戸 洋 記

(JAICOH事務局・本郷公民館運営委員事務局)
※この内容に関するご意見、ご希望、ご質問などを、是非JAICOH事務局までお寄せください。今後の活動の参考にさせていただきます。

お知らせ

JAICOH事務局の住所が末尾の「号」のみ一部変更になりました。隣へ移転という状況ですので封筒の住所等、そのまま使用しております。今後変更してまいりますが、会員の皆様にはご注意ください。

新住所：長野県松本市横田3-10-14 (旧は13)

妊娠婦・母親指導用ビデオ好評発売中!!

推薦／日本歯科医師会・日本歯科衛生士会

8020

お母さんのデンタル教室(全3巻)

○監修・指導／西野理恵(徳島大学)

- | | |
|--------------------|---------|
| I. 赤ちゃんができたら | 15,000円 |
| —妊娠から乳歯がはえるまで— | |
| II. 乳歯を大切に | 15,000円 |
| —むし歯予防と良い咬み合わせの育成— | |
| III. 大切な第一大臼歯 | 15,000円 |
| —健やかな口腔内を保つために— | |

各巻16分 ★全3巻セット価格(VHS)41,000円(送料別途)

お腹の中の赤ちゃんの歯の成長の仕方から、歯並びや咬み合わせに重要な役割を担う第一大臼歯までを解説。

販売元：株式会社アーバン・マーケティング
販売場所：全国書店、アーバン・マーケティング、アーバン・マーケティング

ベストセラーの
モデルチェンジ 'GC.'

義歯の修理やテンポラリーカラウン、レジン個歯トレーの製作などで好評のユニファストがさらにレベルアップして新登場。

従来の常温重合レジンの欠点とされていた色調の不安定性、重合時の変形を鮮やかに解決。黄変や色調の経時変化を極限まで抑えました。

(テックの製作が迅速・簡単)
(優れた色調マッチングと耐変色性) ユニファストⅡ

スターターセット(3-1P)
合計・価格・1箱・粉末5g入 A2,A3,N8(ライブリンク各1本,液100g(104ml)1本,ラバーカン各2個,粉末計量器1個,複数計量器1個,プラスチックヘラ1本,小皿1本,液瓶ノズル付キャップ1個,カップホルダー1個)=¥8,900
※掲載の病院医院価格は、95年4月現在のものです(消費税は含みません)。

株式会社 ジーシー 本社/東京都板橋区蓮沼町76-1 〒174 TEL(03)3985-1221
GC DIC/東京都文京区本郷3-2-14 〒113 TEL(03)3815-1511

カンボジア活動報告

柴田 亭子

「母子保健に口腔保健教育を導入するプロジェクト(カンダール県タクマウ地区)」・「プノンペン大学教育貢献プロジェクト」の2本柱で、昨年よりJAICOHのプロジェクトは進んでいます。

昨年までの活動は4月早々、会員の皆さん的手元に届けられた「JAICOHの歩み・Annual Report」にて報告させていただきましたので、そちらを参考にしてください。

さて、その後の両活動の進捗状況ですが、まず前者「母子保健に口腔保健を導入するプロジェクト」としては、昨年6月より、今年の1月までに、当該地区住民、保健関係者も参加してのワークショップを3回開催。そこで本プロジェクトの計画立案の策定をし、3月より実施段階に入っています。6月までに終了した事業内容は ①口腔保健教育の材料と開発。 ②専門家による将来の口腔保健教育実施者の訓練(トレーナーズトレーニング)が挙げられます。①においては、今年6月まで、リエゾンオフィサーとして駐在していた大西直美さんが中心となって、現地スタッフと共に教材を作成し、とても現地色の強いものが出来上がりました。今後の活動として、口腔保健教育導入のモニタリングと評価、そして当該地域の口腔保健関係者が、適切な歯科診療、マネージメント技術の方法を習得するための訓練(In Service Training)を実施する予定です。後者「プノンペン大学教育貢献プロジェクト」は、昨年宮田隆さん、鈴木基之さん等を中心に行われた4回シリーズの「歯周病学」の講義が、大学関係者サイドより高い評価と新たな要望を得て、それに続く第2弾として今年も実施。テーマは「小児歯科学」を予定。両者とも、プロジェクト完了予定を96年6月に控えています。

カンボジア駐在スタッフ

大西直美さんに

ONAOIMI ONISHI

便りをめしょう!!

JAICOHカンボジア駐在スタッフ大西直美さんは、現地で有意義な活動を続けています。今年の総会にも帰国し、日に焼けた元気な姿を見せてくださいました。

「まず、できることから」……それは現地でがんばっている大西さんに手紙を書くこと。日本からの便りは、何よりの励みになるはずです。会員同士です気軽にどうぞ!

住所: P. O. BOX 1045

PHNOM PENH CAMBODIA

研修会

▷▷ヨモギの香りと酒と蕎麦と◁◁

神谷 誠（歯科医師・長野県）

皆さんこんにちは、今回は私末席新入会員の神谷が去る5月25・26両日に行われました、JAICOH・松本市本郷公民館共催の「地域セミナー“食から考える”……健康、生活、地域、医療、歯」の様子をご報告させて頂きます。画家、千木良宜行氏の講演会、そして絵画教室に始まった本セミナーではありましたが、なんといってもパート1、2の研修会は圧巻がありました。先のようなキーワードを手掛かりに、何が飛び出すかわからない企画者の不安をよそに、本郷公民館に集まる住民パワーは全開！食が生活の規範であること、すなわち食べる事が大好きな人達のこの集会は、宵闇迫る頃早くも、ヨモギ薄焼きのかぐわしき香りに感わされ、口角泡飛ばし、酒尽きることなく、蕎麦打つ醉狂、二日酔いもモロともせず、怒濤の翌日フリーティスカッションに突入したのです。結論、「何をどう食おうと俺の勝手じゃないか！」でもねあんた、本当のゼータク、自然の旨さってえもんを文明の片隅に忘れちゃあいませんかってんだ！べらぼうめ。どっこいあっしらこの地に生きているんでい。医者や歯医者だってあたしら地域の住民がもの申さなくちやあ良くなんねえよ。医者まかせじやあいけねえってことよ。……完

▷▷▷研修会の魅力◁◁◁

三田 コト（短大栄養学教授・長野県）

食と地域生活について、4名から話題が提供された。

宮田正美さんは、地域の産物を活用し、郷土色を伝承・発展する方向で食を營んでいくことが、健康に一番と話された。深井ゆかりさんは、フィリピンとの交流からグルタミン酸Na どっさりの現地食の話をされた。カンボジアから総会に参加した大西直美さんは、あちらでも味の素が大量に使われレストランは同じ味、ジュースなどの缶飲料も「自分は飲めなかつたので、子供には飲ませてやろう…との親心があつて、さかんに飲まれている」と話された。ソロモンも同じ傾向で、輸入食品が普及してきていて、主食がイモから穀物に移行しつつある。虫歯も大変多くなつた。（三田）等など、多くの話題提供があった。

後半の4分科会では、食・地域の近代化・福祉・歯科医療と広範な討論が進められた。終り頃に出された「よもぎおやき」が美味で、また討論が盛り上がった。

▷「人」と「人」が話し合うこと▷

間島 孝子（歯科衛生士・東京都）

今度のセミナーは、「D�も家に帰ればお父さん…ふふふ…」と日頃接している歯科医師の別の顔を発見したような、和んだ気持ちにさせてくれました。

医療は、「医療従事者だけのものではない」ことは百も承知。でも、医療従事者以外の様々な人々と、歯科医師が一緒に「食」をテーマに話し合う機会がもてたというの画期的な事だったと思います。

参加者の視点や立場の違いが現実の問題を明確にさせ、自分達の事として考え、とらえやすくしました。ソロモン諸島や、カンボジアの状況の話が、遠い国の物語でなく、身边に感じられたのも、松本の方々の地域に根ざした生活からの視点があつたからこそだと思います。根底に「暮らし」がある現地地域の方々の話は説得力のあるものでした。

「食」を通して見てくる健康、医療、暮らし、文化等などは国を越えて幾つもの線で結ばれています。様々な方と語り、共に考える機会が増える事を望みます。

○○ソロモン諸島での協力活動○○

村居正雄（長野県・歯科医師）

JAICOHのソロモン活動の特徴は2つあります。ひとつはスタディーツアーであり、もう一つは、食生活と暮らしの交流を目指すグループとの共催ということです。

ソロモン諸島との関わりは1990年に遡ります。これまで5回の派遣が行われ、保健指導、医療技術協力、器材供与、疫学調査、歯科技工士養成への協力などが行われてきました。上記の企画は1994年から2年間続いて今年で3年目になります。昨年は、学生の参加、短大の栄養、被服の先生方の参加などますます輪が広がってきました。

今年も8月24-31日に計画されていますが、長野県の村を回って生活改善普及員として活躍されてきた方々の参加が予定されています。日本とソロモン諸島の生活の知恵との様な接点を持てるかが楽しみです。

来年3月までは、青年海外協力隊員として伊藤先生がソロモンに滞在して居ます。JAICOH事務局を通じて、是非一人でも多くの方が、先生とコンタクトして下さい。

励ましのお便り一つ、それも「協力」です。



本郷地区の方々が、半日がかりで作ってくださった「ヨモギ入りお焼き」に舌鼓をうつ参加者の面々。葉朴な香り高いお焼きと、松本の5月の風が全員を歓迎してくれた。



几帳面に幅を拗えて、一本一本そばを切る村居会長。こうして全員参加のセミナーは和気あいのうちに進行した。



全員から大好評を博した物の一つ「そば」は、宮田さんに手ほどきを受けた木村先生の作品（兎女作）であった。本腰を入れてそば打ちを習う木村先生と、ここでも活躍の宮田さん。



本郷地区生活改善グループ・郷土料理を作る会など地域の人の多大なご協力をいただいた。全員に行き渡る分量のお焼きを作る会の方々。



郷土料理研究家、宮田正美さんの作品。米の粉を使って作る見事な細工餅。



セミナーは神谷先生の司会で、滞りなく進められ、歯科医師に対する一般の方の率直な意見、質問もあり、収穫の多い一日であった。

JAICOH NEWSLETTER

1996-97年度
JAICOH役員

顧問 柳原 悠紀田郎 愛知学院大学名誉教授
宮武 光吉 東京歯科大学教授
鶴巻 克雄 FDI次期会長

会長 村居 正雄

副会長 宇野 公男 会計・企画・広報担当
半田 祐二郎 フィールド担当
真木 吉信 学術・研修・学生担当

理事 池田 慶昭 フィールド担当
深井 稔博 企画担当
田中 健一 研修・学生担当
柴田 享子 カンボジア担当
追川 基樹 ソロモン担当
駒津 めぐみ 広報担当
大鶴 次郎 広報担当
柳田 みどり 地区担当(関東)
石川 和瑞子 地区担当(関東)
秋山 初美 地区担当(関西)
後藤 ひろ子 地区担当(関西)
茶円 真理子 この指とまれ担当

監事 西村 誠 日本歯科医師会常務理事
金沢 紀子 日本歯科衛生士会副会長

事務局 白戸 洋 (敬称略)

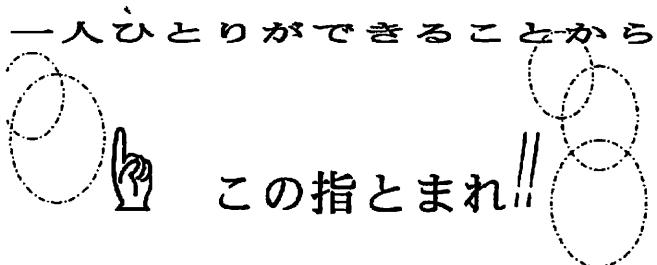
「国際ボランティア貯金」

JAICOHへの配分金額決定!!

¥10,014,000 が今年もJAICOHへ

NGOとして活動を続けるJAICOHにとって、この「国際ボランティア貯金」からの援助協力基金は、活動資金として命の綱といつても過言ではありません。

毎年その金額の決定までには、役員をはじめ会員の皆様にも気をもませることになりますが、おかげさまで本年度も高額の配分金をいただきました。ますます充実した活動を目指し、会員全員が力を合わせて楽しく力強く、自分にできることを心がけてJAICOHを充実させましょう。



季節の移り変わりは早いもので、5月の総会の時は新緑真っ盛りでしたが、そろそろまたシーズンが変わります。JAICOHの会員の皆さん、どんな夏を過ごしたのでしょうか。

『この指とまれ』の活動も地道にコツコツと続けています。今まで、会員以外の方々へも呼びかけていただき、皆様のご協力を得て、使用済みテレfonカードの数もますますその数を増し、5000枚を超える数となりました。その他にもダンボール箱一杯の使用済み切手など……「たくさんの方々の気持ちが集まつた」と実感しています。

テレfonカードの換金は、1000枚単位となりますので、皆さんからの1枚1枚が大変貴重なこととなります。もし手元に、使用済みテレfonカードがありましたら、1枚でも2枚でも結構です、下記の住所までお送りください。市販のカードだけでなく、記念品などでいただいたオリジナルカードも大丈夫です。「一人ひとりができるから」そんな気持ちでよろしくご協力ください。

送り先: 〒464 愛知県名古屋市千種区橋本町3-38

清風荘5号 水野様方 JAICOH名古屋事務局

担当 茶円真理子

◆◆◆◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆◆◆◆

会員の皆様、大変長らくお待たせいたしました！ 広報を担当することになって、第1号からこんな調子では、この先とっても不安になってしまいますよネ…。すみません。今まで担当されていた今出先生の御苦労をひしひしと痛感しております……ハイ。先日オリンピックの開会式を見て、CAMBODIAというブラカードに妙に感激し、まだまだ聞いたこともなかった国がたくさんあり、地図を広げながらの世界一周を楽しんだ駒津です。よろしくお願いします。

駒津めぐみ

5月の松本はまだ寒かったように覚えています。最近は海外ばかり出掛けていたので、同じ日本でも地域によってずいぶん違うことを思い出しました。松本でも「地域に根ざした医療」を目指す熱心な先生方にお会いしました。諸先輩のように、それぞれの場所で最善の医療を心がけ、今後に励む必要を改めて感じた次第です。

大鶴次郎